

<p>1. 主催者・共催者名 独立行政法人国立環境研究所、国連環境計画・気候変動に対する脆弱性、影響、適応に関する研究プログラム</p>
<p>2. タイトル 気候変動影響適応の課題への対応：適応研究とパートナーの参加のさらなる促進のための双方向セッション</p>
<p>3. 目的・概要</p> <p>温暖化影響・適応研究コミュニティの主要な課題のひとつは、脆弱性・気候変動影響・適応に関連する情報を政策決定者に提供することである。環境省環境研究総合推進費 S-8「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」は、この点で貢献してきている。また、共催者である PROVIA は、世界的な脆弱性及び影響評価コミュニティに向けた、研究の優先事項のリストを作ってきた。</p> <p>本イベントは、次のステップとして、研究コミュニティに対し、同定した優先すべき研究項目とその実施から、研究プロジェクトを展開するよう促進するプロセスをどのように開始するかについて議論する。</p>
<p>4. アジェンダ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会の辞 (Saleemul Huq 氏 (IISD)) 2. PROVIA の活動の現状と今後の課題 (Saleemul Huq 氏 (IISD)) 3. 気候変動の影響評価及び適応策に関する研究プロジェクト (推進費 S-8) の概要 (久保田泉 (国環研)) 4. 脆弱性、影響、適応に関する PROVIA の研究優先事項：次なるステップ (Balgis Elasha 氏 (アフリカ開発銀行)) 5. パネルディスカッション：PROVIA はステークホルダーに対しどのように貢献できるか？ 6. 閉会の辞 (Saleemul Huq 氏 (IISD))
<p>5. 発表・議事の概要</p> <p>まず、ハク氏 (IISD) が、PROVIA が脆弱性及び影響評価を担う研究者コミュニティに向けて、研究の優先事項のリストを作ったことなどの活動の紹介をした。</p> <p>その後、久保田 (国環研) が環境省環境研究総合推進費 S-8「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」がどのように国レベル及び地方レベルの適応策策定に貢献しているかについて紹介した。その後、イベント参加者とパネリストとの間で、脆弱性・影響・適応に関する研究がどのように政策決定過程に貢献するか、その際の課題とは何か、どのようにそれら乗り越えるかなどについての意見交換がなされた。</p>

6. 会場写真

